

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

まん延防止等重点措置が適用となって約 10 日が経過しました。オミクロン株による衰えることの無い感染拡大の中、各校においては、感染防止対策と併せて『学びの保障』を目的とし、オンライン学習を実施させていただいておりますことに対し、改めて感謝申し上げます。

さて、今回の GIGA 通信では、第 13 号で予告した「学習指導調査研究委員の先生方の 1 人 1 台端末の活用実践」の紹介を変更し、現在進行中のオンライン学習について取り上げます。

近所ということもあり、吾妻小学校での取り組みを先日、参観させていただきました。今回、各校で実施していただいているオンライン学習は、実態に応じた形で実施していただいております。吾妻小学校での取り組みが全ての学校で取り入れられるものではないと思いますが、各校での今後の取り組みの参考になるものと感じました。以下紹介いたします。

○吾妻小学校のオンライン学習

吾妻小学校のオンライン学習は、対面とオンラインを組み合わせたいわゆる「ハイブリッド型」と呼ばれているオンライン授業です。現在は 4 年生と 6 年生の複数名の児童に対して行っています。どの教科を行うかは、担任裁量となっているそうです。

オンライン授業としたことについて、校長先生から「保健所から当該家庭に対して 2 月の初旬まで自宅待機との指示があり、約 3 週間登校できなくなりました。『つながり』を絶やさないために、ミートを利用し授業を提供して欲しいと担任に伝えました。」とお聞きしました。

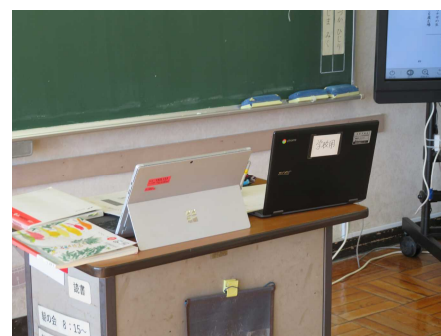
オンライン授業を行っている 4 年生担任の先生は、「4 年生では 2 人の児童にオンライン授業を提供しています。校長先生から話がある前からミートを利用することは考えていました。9 月の休

校後にも児童が 1 週間欠席したことがあり、その際もオンライン授業を行っていたので、当然行うものという意識でした。6 年生担任の先生も同じ考えでした。」という話を聞きました。

○端末を 2 台使ったハイブリッド型オンライン授業

4 年生の国語（内容「読み」）

の授業を参観しました。教室に入ると写真



のように教卓に 2 台の端末が置いてあります。1 台は指導者用端末（サーフェス）、もう 1 台はクローム端末（予備機として各校に配布したものです。指導者用端末（サーフェス）にはクラスルームが立ち上がり、ホストとなっていることがわかります。一方、クローム端末の画面には 2 人の児童と黒板が映っていました。クローム端末の画面を確認することで児童の表情と黒板を含めた学級内の状況が一度に確認できました。

なお、児童側が授業開始直前にログインすることで児童・担任、双方の負担軽減にもなっているとのことでした。

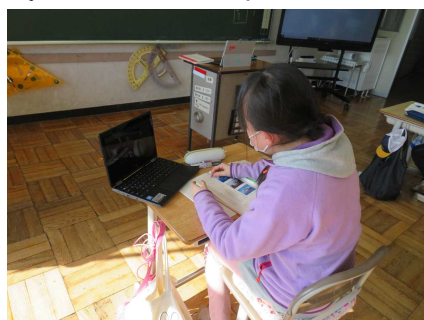
授業が始まると担任の先生から「教科書〇ページを開いてください。このページです。」との声かけがあ



りました。と同時に、クローム端末の画面がモニターに映し出されているデジタル教科書に変わり

ました。2 台利用していることについて「指導者用端末（サーフェス）で利用できるデジタル教科書を使いたいと言うことと、切り替えがスムーズにできるので 2 台使っています。」というお話をお聞きしました。実際に画面の共有を含め、授業中の画面切り替えがとてもスムーズで、指導者用端末端末(サーフェス)でのクラウド利用が日常的に行われている事がわかりました。

また、ク
ローム端末
は簡単に持
ち運びがで
きるの、
写真のよう
に、自宅に



いる児童との間で話し合いが行われています。さらに、ロイロノートを利用し、担任の先生が作ったワークシートが、自宅にいる児童に配布、授業後回収されるなど、授業を単に中継するだけではない、非常にレベルの高いハイブリッド型オンライン授業が実践されていました。4 年生だけではなく、6 年生においても基本的にはこのような形での授業が行われているとのことでした。授業後、6 年生担任の先生にお話をお聞きしました。

「オンライン授業を行うことで、画面越しではありますが、児童と直接話ができるということが何よりであると感じています。教室の児童も喜んでいます。ミートに限らず、ロイロノート等のアプリは日常的に活用しているので、今回オンライン授業になったから特に負担が増えたという感じはありません。逆に、オンライン授業ができるので、家庭との連絡等も授業中できてしまうなど、負担が減ったかもしれません。9 月の休校時に先生方の中で研修ができて、スキルが上がったことが大きいと思います。」との話を伺いました。

校長先生からは「本校では、日常的な持ち帰りはしていませんが、1 年生から 6 年生まですべての学年で授業の中で 1 人 1 台端末を積極的に使っています。ロイロノートが主ですが、児童のスキルもこの 1 年間でとても向上したと感じています。今回、ハイブリッド型のオンライン授業が行

えたのは保護者の理解もあり自宅の Wi-Fi 環境が整っているからできたことだと感じています。小規模校という特性、そして地域に恵まれていることが大きいと思います。先生方には『吾妻小だからできることは、吾妻小でしかできないこと、今先生方には多くのことを学んでほしい』と話しています。」との言葉をいただきました。

○学校の実態に合わせたオンライン学習を

今回参観させていただいたオンライン授業から、授業を受けている児童はもちろん、保護者の喜ぶ顔が想像されました。本市においては、保護者からの要望があった場合は端末を貸出ししていただくとともに、学校の実態に併せてオンライン学習を実施していただくようお願いしています。

ご紹介した吾妻小学校でのオンライン授業は、コロナ禍において国が理想とするような取り組みであると思いました。（それ以上かもしれません。）しかしながら、校長先生のお話にもあったように、教員・児童のスキルが高く、さらに家庭の Wi-Fi 環境が整っており、また、ご家庭の理解があったという恵まれた状況もありました。

今回、市内のある学校では、感染が急拡大したことにより、それまで行っていたオンライン授業をやむを得ず一時休止し、e ライブラリー中心のオンライン学習に切り替えたということがありました。感染してしまった等で登校できないお子様が半数以上を占めるような状態では、授業を進めることができないということが理由です。担任の先生にとっても歯がゆいことだったと思います。

本校のオンライン学習はこれだと決めつけず、実態に合わせて臨機応変に変更することも大切であると思います。環境と併せて保護者のニーズなども丁寧に確認したうえで学校の実態に合ったオンライン学習の実施をお願いしたいと思います。

(文責 教育センター所長)

※教育センターでは機器の貸し出しも含めオンライン授業を含めたオンライン学習の実施に向けた相談・支援を引き続き行っています。ご連絡をお待ちしています。